

今までの防災対策！少しだけ視点を変える

阪神淡路大震災が発生するまでは「防災」の概念が「災いを防ぐ」という考え方で、行政も市民も災害と関わってきました。しかし、阪神淡路大震災を目の当たりにし「災害を防ぐ」のではなく、被害が発生することを前提として「災害による被害を減らす」という概念「減災」という考え方で対応する必要があると気づき、防災対策から減災対策へと考え方を変化させてきました。

減災対策の基本は、100人死亡してしまうのであれば、死者を90人にして10人助けるための対策を実施する。最終的には、1人でも多くの人々の命が助かる対策を実施することなのです。

そのためには、いつ襲ってくるか判らない災害に対し、防災対策という「がんじがらめの防災活動」ではなく、減災対策を特別な活動にすることなく、できるかぎり普通の生活の延長線上、日常生活の中に組み込み、継続して当たり前に行えるアイデアが大切と考えます。言い換えれば、減災対策を災害多発国である日本の中で、ひとつの継続可能な生活文化にする必要があります。

普段の生活・日常生活の中に自然と減災に役立つ知恵を埋め込み、親から子へ、子から孫へと受け継がれるような生活文化にしてしまうこと。これを行えば災害対策だ、防災対策だ、というような構えた対策ではなく、「減災文化」として永年継続する活動ができるようになります。

でも、この減災文化は、日本に昔からあることに気づきます。豪雪地帯では雪害を減らす為に屋根の勾配や向きを地域で揃えて、町づくりをし、雪下ろし後の雪を集積しやすく、機械で除雪排雪しやすいような方式をみんなで行っています。これは毎年雪害に悩まされている雪国の人々が作り出した「雪害減災文化」です。



台風が毎年来る地域では、台風が発生する度に、普段の生活と違う行動をするのではなく、普段から屋敷づくりや生活方法も風害対策を行っており、それが当たり前の文化としてそれぞれの地域に根ざしています。当然、それらの地域では、新しく住む人たちも自然と雪害・風害減災文化を受け入れ日常生活を普通に送っています。これが「言い伝え・教訓伝達文化」なのです。

「地震減災文化」も考えれば同じことなのです。建物を造るときには、耐震免震設計されて建築することが当たり前の「住まい減災文化」というハード面と、家具の転倒防止やガラスの飛散防止は当たり前の「住まう減災文化」のソフト面（人が意識して行う対策行動）、この両方が合わさっていく生活減災文化が根付かなければ、次の大災害で被害を最小限に食い止めることはできないでしょう。

しかしながら、この減災文化は災害発生後に高まり、潮が引くかのごとく、だんだんと喉元過ぎて忘れられてしまうのです。地震保険の加入も同じことが言えるのではないのでしょうか。そこで減災対策の方法を、少しだけ視点を変えて考えてみましょう。

例えば、今回の東日本大震災で発生した「大津波」。大きな地震が発生したら、津波が来ると思って逃げろ！「津波てんでんこ」（自分の責任で早く高台に逃げろ）の伝承。ところが逃げるのにスピーディーな文明の利器「自動車」を利用したことで亡くなるという悲しい結末が起ってしまいました。これは大津波が来ることを想定し、逃げるという対策は多くの地域で根付いたことには間違いがありません。しかし、その想定を上回る津波が来てしまった。であれば、過去の教訓である「津波てんでんこ」という素晴らしい文化に現代の利器であるもう一つのアイテムをプラスした対策も考えられるのではないのでしょうか。



大地震発生→津波が来る→高台に逃げる→間に合わず溺れる→生存率の低下 という状況を招きましたが、この結果から生存率を上げる方法として、文明の利器（アイテム）の利用を考えてみましょう。



大地震発生→津波が来る→逃げる前に救命胴衣（アイテム）の着用→高台に逃げる→間に合わないが溺れにくい→生存率の向上 「救命胴衣着用避難法」こんなことで命を失わずに済むのかは、専門家が検証しなければ判らないことだが、実際に船に乗る際には、救命胴衣の着用が義務づけられています。なぜなら溺れ死なないための最高の手段だからなのです。大災害では全員の命を救う方法は限りなく少なく、全国一律防災訓練のような、人に言われるままの防災対策では「あなたの大切な人は守れない」のです。何か、その地域でしか判らない、あなた自身にしか判らない「死なない対策」はきっとあるはず。過去の災害の教訓を再度確認して「自分の大切な人を守る減災対策」をみんなと一緒に考えていきましょう。

緊急放送設備設置完了！

グリーンシティの緊急放送設備が強化されました。各棟の上に大型スピーカーを設置、災害発生時（防災訓練時や防犯対策にも使用）に、できる限り多くの人に適切に情報を伝えるシステムです。この緊急放送設備は普段の地域活動時等に使用することで設備点検を行います。ご理解ください。今回はクリーン作戦時に緊急放送訓練を行いました。

